

實相寺 花園会報

令和二年
一月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第129号

「心平らかにして寿自ずから長し」

南禅寺派管長

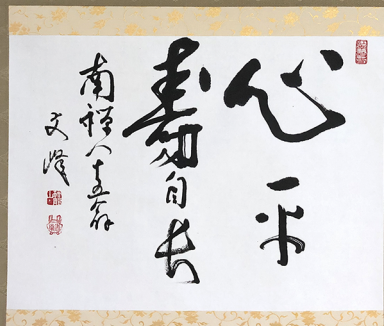
香南軒

中村文峰老師

(昭和五十年)

心が平穩であつて、はじめて長生きも素直に喜べるものです。豊かでありながら、様々な問題を抱える日本に今求められているのは、何ごとも量ではなくて質でありましょう。

しかし人生の質を高めるために必要なのは、財産でも家族でもなく、自らが足るを知る心ではないかと、昨年末、管長退任を表明された香南軒のお心を慮ると思うのです。



観音信仰や西国巡礼が盛んだったことが影響しているのかも知れません。

いずれにしても年忌法要は単に三と七のつく年回りに行うという訳ではなくそれぞれに意味がありました。それが段々と時代が下がるにつれ十七回忌や二十三回忌、二十七回忌が行われるようになり、その意味が判らなくなつたようです。

さらに昨今は故郷を離れて暮らす人も増え、それに伴い親戚づきあいも疎遠となつて、ご法事そのものを行われないご家庭も増えてきましたが、故人の冥福のみならず、私達生きる者のグリーンフケアとしても先祖供養は必要だと思ひます。

特に私は十三仏事に二十五回忌を加えた赤字のご法事は大切だと思ひますので、どうぞ宜しくお願い致します。

一周忌	平成三十一年・令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十五回忌	平成八年
三十三回忌	昭和六十三年
五十回忌	昭和四十五年

「令和二年度 年忌表」

「ご法事についての一考察」

今年、年忌のご法事があたっている方は4Pの通りです。ご法事を営まれる際は、お早めに開催日時をご相談下さい。

さて今でもスリランカやタイなど南方の仏教では人は死後四十九日経つと何かに生まれ変わると信じられています。元タイランドでは四十九日忌後の年忌法要は営まれていませんでした。

しかし仏教は中国で儒教の影響を受けました。儒教では親が亡くなると二年間は喪に服するのが孝行だと説きます。また閻魔大王えんまは死後三十五日目の裁判官ですが、仏教以前に中国では死者は生前の行いを十人の冥王によって裁かれると考えられていました。そこで遺族がその裁判の時に、死者に代わって善根功德を積み、

死者の罪業が消滅すると考え、初七日から四十九日までの七回の法要に加え、百ヶ日忌、一周忌、三回忌が営まれるようになりました。これを十仏事と言います。

さらに日本では土着の祖霊信仰の影響も受けて、奈良時代から鎌倉時代にかけて十三回忌、三十三回忌、七回忌の順で営まれるようになりました。これを十三仏事と言います。さらにその後、十七回忌や二十五回忌が加わった様です。

七回忌以降の法要を誰が定めたのかは不明ですが、十三仏事にはそれぞれ本地ほんじ仏という仏様が定められていて、やはりそこには意味があるようです。

例えば七回忌の本地仏は阿閼仏あしやくぶつですが、三回忌までに生前の罪業も尽きたので、直接仏法に導くのが東方を司る阿閼仏で、

東方には初発心しよほつしんという意味があります。

つまり心を新たにリセットする訳ですが、今日的に考えても、生前、故人と何らかのわだかまりがあった場合、なかなか素直にはなれないかも知れません。しかし六年経てば、冷静に故人や自分を見直せることもあるかと思えます。つまり七回忌は新たな気持ちで故人との繋がりを見つめる契機になると思うのです。

十三回忌は大日如来だいにとにょらいが本地仏ですが、大日如来は円満に衆生を利益する仏です。没後十二年も経つと遺族の気持ちも落ち着き、悲しみよりも故人に対する感謝の念が増してくるのではないのでしょうか。

また十三回忌は故人が亡くなった年と同じ干支が回ってきます。占星術が盛んだった中世では、重要な節目だったのだ

ろうと思います。そう考えると七回忌は亡くなった年と星座の配置が真逆になりますし、同様の理由で私は二十五回忌も大切だと思います。

そして三十三回忌は虚空蔵菩薩こくうざうぼさつが本地仏ですが、虚空蔵とは「何も無い処から全てが出てくる蔵」という意味で、故人が一切空の世界、般若の世界に帰る意味に受けとめられます。だから三十三回忌が年忌法要の最期、弔い上げなのです。

平成の初め頃、五十回忌が盛んに行われましたが、それは戦災で亡くなった方が多かったのと、平均寿命が延びたことが原因です。かつて五十回忌以降は遠忌おんきといって特別な方しか行われませんでした。ちなみに何故最期の年忌法要を三十三年目に行うのかその根拠は不明ですが、